

体制	項目	概要	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
【言語力（日本語）】 ◎武居渡教授 ◎古石篤子教授 ◎飯泉菜穂子特任教授 ○久保沢寛委員	⑤ Reading-Test 全国標準読書力診断検査	・日本語の「読書力」（読みの能力）を評価する。読字力・語彙力・文法力・読解力の4つの下位テストがある。 ・対象：7～15歳	7～8歳 (6人)	7～9歳 (8人)	7～10歳 (13人)	7～11歳 (14人)	7～12歳 (18人)	7～13歳 (26人)	7～14歳 (28人)	7～15歳 (28人+α)	7～15歳 (23人+α)	7～15歳 (22人+α)
	⑥ j-coss 日本語理解テスト	・3歳から小学校高学年までの語彙・文法力の範囲での日本語の語彙・文法力を調査。 ・第一部（語彙チェック）と第二部（文の理解）から構成。 ・対象：4歳～10歳前後	4～8歳 (14人)	4～9歳 (18人)	4～10歳 (26人)	4～11歳 (28人)	4～12歳 (28人+α)	4～13歳 (28人+α)	4～13歳 (23人+α)	4～13歳 (22人+α)	4～13歳 (20人+α)	4～13歳 (15人+α)
【人格形成】 ◎河崎佳子教授 ○中尾恵弥子委員 ○物井明子委員	⑦ 活動時の定期的な観察と保護者への聞き取り調査	・臨床心理等専門家が定期観察・保護者インタビューし、愛着形成・コミュニケーション・対人関係（家族含む）・自尊感情等の発達を調査 ・対象：0歳～17歳	0～9歳 (28人+α)	0～9歳 (28人+α)	0～9歳 (28人+α)	0～11歳 (28人+α)	0～12歳 (28人+α)	0～13歳 (28人+α)	0～14歳 (28人+α)	0～15歳 (28人+α)	0～16歳 (28人+α)	0～17歳 (28人+α)
	⑧ S-M 社会生活能力検査	・人格形成に係る近辺自立・移動・作業・コミュニケーション・集団参加・自己統制の6つの社会生活能力を評価する。 ・対象：0歳～15歳	0～8歳 (28人+α)	0～9歳 (28人+α)	0～10歳 (28人+α)	0～11歳 (28人+α)	0～12歳 (28人+α)	0～13歳 (28人+α)	0～14歳 (28人+α)	0～15歳 (28人+α)	0～15歳 (23人+α)	0～15歳 (22人+α)
	⑨ PF スタディテスト（絵画欲求不満テスト）	・欲求不満状況に対する反応傾向に基づいて、被検者のパーソナリティを把握。 ・対象：7歳～16歳	7～8歳 (6人)	7～9歳 (8人)	7～10歳 (13人)	7～11歳 (14人)	7～12歳 (18人)	7～13歳 (26人)	7～14歳 (28人)	7～15歳 (28人+α)	7～16歳 (28人+α)	7～16歳 (23人+α)
	⑩ 児童用孤独感尺度	・児童期の孤独感を評価。 ・対象：11～17歳				11歳 (5人)	11～12歳 (6人)	11～13歳 (8人)	11～14歳 (13人)	11～15歳 (14人)	11～16歳 (18人)	11～17歳 (26人)
	⑪ 心の理論課題検査	・子どもが人（他者）の意図・思考など、「心の動き」をどの程度理解できるかを調査把握。 ・対象：4～8歳	4～8歳 (14人)	4～8歳 (13人)	4～8歳 (20人)	4～8歳 (20人)	4～8歳 (15人+α)	4～8歳 (14人+α)	4～8歳 (10人+α)	4～8歳 (2人+α)	4～8歳 (α人)	4～歳 (α人)

2027年度 自主的な対応も視野に検討

【学習能力】 ◎酒井邦嘉教授 ◎武居渡教授 ◎阪本浩一教授 ◎河崎佳子教授 ◎飯泉菜穂子特任教授 ○久保沢寛委員	⑫学力検査 ※小テスト実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学習理解における手話通訳と専任教員の必要性を学問的に明らかにする。 ・実際の教育現場を模したパイロット研究を実施。 ・できるだけ通学年的な「学習単元の説明+小テスト」を設定。手話通訳（動画含む）を準備し、手話群・手指日本語群・音声日本語群（人工内耳装着児を含む）で統計学的に比較する教育的・心理学的な「研究」（事後的にMRI調査を組み入れていくことも検討）。 ・当初は、国語・算数（IQテストのように、論理・推理を要するもの）に絞って行い、次年度以降、順次、対応教科等を追加。 ・対象：就学後児童 	就学後 (6人)	就学後 (8人)	就学後 (13人)	就学後 (14人)	就学後 (18人)	就学後 (23人)	就学後 (22人)	就学後 (20+α人)	就学後 (15+α人)	就学後 (14+α人)		
			メソッド構築	漸次教科を追加										
			学習支援 (もあこめ活用)	漸次教科を追加										
			研究・調査	漸次教科を追加										
				分析・取りまとめ										

自主的な対応も視野に検討

研究の進捗状況について

こめっこ活動のスタート当初（当時2歳）から支援してきた子どもたち（対象児4名）が就学を迎えたが、心理発達分野においても、言語獲得（手話言語・日本語）分野においても、それぞれが順調な発達を示している。

その後、0歳台、1歳台から活動に参加した子どもたちも、愛着形成を含む心理発達、手話言語獲得において、順調な道筋を歩んでいる。重度聴覚障害児に関しては、1歳～2歳で人工内耳を装用するケースがほとんどであるが、手話言語獲得は聴覚を活用した日本語習得にも効果を与えている傾向が強く観察されている。

以下、各分野の成果と課題について述べる。

脳科学分野

報告者：酒井邦嘉

研究報告書（2021年度） 自己評価基準 A：目標達成 B：ほぼ目標達成 C：目標に至らない部分があった D：目標に至らず

今年度(2021年度)の目標	自己評価	成果と課題（自己評価の理由）	次年度(2022年度)の目標
1～2年間は試行的調査等により調査研究手法の確率を図る。手話の言語性（文の統辞構造や意味処理など）に関して脳機能を明らかにするパイロット調査を実施する。	C	手話独自の統辞構造や概念理解について、MRI調査に最適な検査方法の検討を重ね、MRI装置を稼働させながら研究手法の開発とデータ取得の方法について検討を進め、内容理解に対するテスト問題と環境構築を進めている。新型コロナウイルスの感染拡大により、大阪と東京間での参加者の移動が叶わず、1月～3月に予定していた検査の実施が延期となった。現在は、動画を用いた手話読み取り時の理解に関する実験テストとパイロット検査の実施を予定しており、また学習能力領域での追跡研究と併せた思考に関する実験テストのデザインを並行させて進めている。MRIによる調査研究は人工内耳の非装着者（中高生以上）に限定して、安全対策を万全とした上で来年度に実施したい。	

研究報告書（2021年度） 自己評価基準 A：目標達成 B：ほぼ目標達成 C：目標に至らない部分があった D：目標に至らず

今年度(2021年度)の目標	自己評価	成果と課題（自己評価の理由）	次年度(2022年度)の目標
「日本手話文法理解テスト」 (12名に実施)	A	就園児（4歳～6歳）9名、就学児（7歳以上）10名に実施した（年1回の実施）。就学児に対しては、複数名での実施が可能のため、検査数を増やすことができた。	・就園児、就学児合わせて18名に実施予定
「質問一応答関係検査」 (18名に実施)	B	就園児（4歳～6歳）6名、就学児（7歳以上）9名に実施した（年1回の実施）。活動中の対象児の観察等の結果、検査実施は発達段階として困難であると判断したため、目標数より少ない数となった。	・就園児、就学児合わせて18名に実施予定
「手話版語彙流暢性検査」	B	就学児（7歳以上）2名に実施した（年1回の実施）。次年度は、今年度2名に実施した映像記録を分析し、提示方法の更なる工夫と判定方法などメソッドの構築を引き続き行い、検査数を増やしていく。	・就学児を中心に4名に実施予定
絵画語彙発達検査 (8名に実施)	C	言語力（書記日本語）を検査するにあたり、短い時間でたくさんの研究データを得る方法を考慮した結果、語彙の理解度を短時間で得られる絵画語彙発達検査の方が適切と考え、検査の目的、課題内容、教示の方法（刺激語は指文字もしくは書記日本語での提示）の確認をした。次年度、6月頃より絵画語彙発達検査の実施を目指す。	・6月頃より小学生以上8名を対象に検査実施予定
J-coss 日本語文法理解テスト (8名に実施)	C	検査方法、実施の際の教示方法（手話、指文字など）の確認に時間を要した。また、対象児は日本語での学習が始まる小学生以上を対象とするのが適切であると考え、未就学児への実施はしない方針を固めた。次年度、6月頃より検査実施を目指す。	・6月頃より小学生以上8名を対象に検査実施予定

今年度（2021年度）の目標	自己評価	成果と課題（自己評価の理由）	次年度（2022年度）の目標
こめっこ・べびこめ・もあこめ活動時における観察と保護者への聞き取り (28名以上に実施)	A	べびこめ参加の未園児（0～3歳）28名、こめっこ参加の就園児（4歳～6歳）13名、もあこめ参加の就学児（7歳以上）11名について、観察と保護者からの聞き取りによるデータ収集を行った。得られたデータは、対象児別に経過が辿れるフォームで記録している。	・引き続き、未園児、就園児、就学児合わせて28名以上のデータ収集を行う。
「津守・稲毛式乳幼児精神発達診断」 (未就学児の22名に実施)	A	手話言語の発達、手話による理解やコミュニケーションについても回答できるように修正した内容で、実施。未就学児41名と就学児1名について、延べ64回実施した（3歳までは半年に1回実施、4歳以降は年に1回実施）。	・引き続き、未園児、就園児合わせて28名以上に実施予定。
「S-M 社会生活能力調査」 (就学児8名以上に実施)	A	手話言語の発達、手話による理解やコミュニケーションについても回答できるように修正した内容で、実施。就学児10名について実施した（年に1回実施）。	・引き続き、就学児8名以上に実施予定。
「心の理論課題検査」 (7歳以上の6名に実施)	B	方針に基づいた課題内容の手話翻訳や映像の切り替え、課題提示用イラストの作成、教示のタイミングなどの編集作業に時間を要し、今年度中に検査を実施できなかった。4月頃より実施し、データを収集していく予定である。 今回作成している「手話劇版心の理論課題検査」は、手話での内容理解に繋がること、学習能力分野と協力して検討を重ねていくのが望ましいと考えられることから、2022年度から理解力（学習能力）分野の研究として実施していく方針となった。	・課題動画の完成 ・6歳以上の8名に実施予定
PF スタディテスト（絵画欲求不満テスト） (7歳以上の6名に実施)	C	本検査を含め、既存の人格検査（日本語による教示）について検討し、幼児期前期からこめっこに通い、手話を獲得・習得して育つ子どもを対象に、小学校5年生（10歳）からデータを取り始めることにした。そのため、今年度は実施していない。	2023年度から実施する人格検査について、自尊感情、孤独感、アイデンティティ形成等について、ひきつづき検討と準備作業を行う。

今年度(2021 年度)の目標	自己評価	成果と課題（自己評価の理由）	次年度(2022 年度)の目標
学習能力（思考力）	C	<p>国語や算数といった授業カリキュラムと言語の課題に関する検討を進めていく際に言語の読み解きに関する問題とその検討に時間を要する形となったため C 評価としたが、現在思考力と理解力を切り分け、認知過程と思考に紐づく問題を作成した上で思考に関するそれぞれの子どもたちの検査を行うことを予定している。「内容理解」「連想」「関係性の発見」「数量感覚」「空間把握」などの項目にあわせた問題の作成を進めており、ろう児の認知過程やプロセスにより紐づいていく形でのテスト問題の検討と体制を含めた問題作成・パイロットテストの展開を早急に進めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題作成 ・パイロットテスト ・検査実施 ・検査対象の拡大
学習能力（理解力）	B	<p>手話を通じたコミュニケーションや内容理解がどのくらいできているのかを測る問題の作成を進めている。簡易なモノログでのテストを予定しており、いくつか段階に分けた簡易な対話テストを行い、難易度をあげていくことで子どもの理解がどのように育っているかを検査可能とする方法を検討している。今年度の目標としての参考文献の調査等は概ね進んでおり、来年度に関しては、前半期にメソッドの構築、パイロットテストと検査実施を目指している。また、作成を進めてきた心の理論課題の映像問題に関しても映像が完成し、4 月より順次検査実施、データ収集を予定している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メソッドの構築 ・検査実施

言語力分野の検査数（実人数）の報告

○日本手話文法理解テスト（目標数：12名に実施）

	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	12歳	合計
2021年度	3	1	5	2	2	5	1	19

○日本手話版語い流暢性課題

	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	合計
2021年度	0	5	0	0	1	1	2

○質問一応答関係検査（目標数：18名に実施）

	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	12歳	合計
2021年度	1	1	4	1	2	5	1	14

○津守・稲毛式精神発達検査（目標数：未就学児の22名に実施）

0歳～3歳までは6ヶ月に1回、3歳以上は1年に1回行っているため、実人数と延べ人数にて報告する。

・実人数

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	合計
2021年度	0	6	11	11	7	2	4	1	42

・延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1歳	0	0	1	2	0	0	0	1	2	0	0	0	6
2歳	0	1	3	2	3	0	1	0	0	3	2	1	16
3歳	2	1	0	2	1	4	1	0	0	2	2	1	16
4歳	0	0	0	2	0	2	2	0	0	0	1	0	7
5歳	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
6歳	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	4
7歳	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
8歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	2	6	9	4	6	5	2	2	5	6	3	52

○S-M 社会生活能力検査（小学生以上）（目標数：就学児8名以上に実施）

・実人数

	7歳	8歳	9歳	12歳	合計
2020年度	2	2	6	1	11

思考力・学習能力研究プロジェクト会合 議事録 概要

	日程	概要
7	2021年6月22日(火)	<ul style="list-style-type: none">・横断研究、研究手法の確立・心情理解に関する研究手法の確立と提案
8	2021年7月13日(火)	<ul style="list-style-type: none">・算数、自然科学における横断研究・認知プロセスにあわせた自然科学領域の教材作成
9	2021年8月19日(火)	<ul style="list-style-type: none">・個別の追跡継続研究とそれぞれの研究の整理
10	2021年9月30日(木)	<ul style="list-style-type: none">・言語能力と認知能力とを区別するための検討
11	2021年11月11日(木)	<ul style="list-style-type: none">・学習能力研究進捗に関して・脳科学領域のスケジュールについて
12	2022年2月3日(木)	<ul style="list-style-type: none">・全体の研究の整理・手話言語条例シンポジウムの振り返り
13	2022年3月17日(木)	<ul style="list-style-type: none">・研究体制と各分野の研究進捗報告